

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[36]歳、勤続年数[17]年、現場経験年数[16]年、階級[消防司令補]、同様の活動 [1年に数度]、任務 [車長]
○当事者B	年齢[29]歳、勤続年数[11]年、現場経験年数[10]年、階級[消防士]、同様の活動 [1年に数度]、任務 [機関員]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[]、同様の活動 []、任務 []
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	A	一人ずつバスケットに抱っこして乗せる	
経過2	B	Aと協力し約5名乗せる	
経過3	A, B	記念撮影に立ち会う	
経過4	A	「順番に降ろすから待っててね」話し展開はしごの片方のロックを外しはしごを展開した	ロックは2カ所
経過5	B	Aの話しの後、展開はしごの片方のロックを外しはしごを展開した	ふたりで展開
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

.....

- 事故の場合 ：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

はい：成人等がバスケットに乗った場合と幼児の場合とでは行動や恐怖心等の違いがあるので特段の配慮とそれに伴う危険箇所の予見が欠如していた。
--

【事故発生後の取り組みについて】

・・・・・・・・・・・・・・・・

○注意力欠如、焦り等の対策について

消防署においてははしご車の体験搭乗等の危険予知，対策を作成したこと。依頼内容の確認や幼児等の特別な対象者の場合は，特に引率者へは危険性やその対策等について連携を密にすることと意識付けられた

○装備・資機材の対策について

挟まれ事故となった当該はしご車バスケットの展開はしご危険箇所部分には，危険啓発のマーキングを行った

○活動環境の対策について

以後，消防本部では庁舎見学者等に対する保険加入が行われた

○指揮・情報伝達の対策について

はしご車バスケット搭乗体験による指の負傷事故について

展開はしごがバスケットに収納されている時に、既に負傷場所をしゃがんで握っており、図のとおり展開した時に指がつぶされ負傷したもの。

